

茶臼山地すべり災害



写真-3 崩壊前の茶臼山全景、向って右が南峰、左が北峰。大正4年4月撮影
長野市篠ノ井信里区善鏡北から望む。

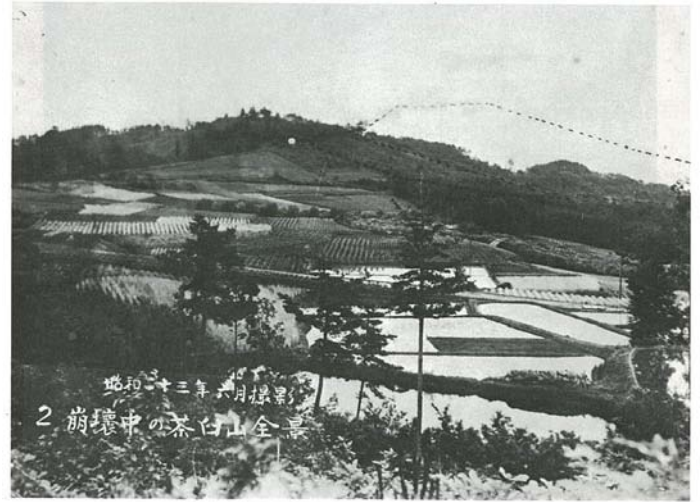


写真-4 同上、崩壊中の茶臼山全景、波線部分が崩壊によりなくなったところ。昭和23年6月撮影

茶臼山は長野市篠ノ井地区にあります。地すべり地は平成9年度に概成して自然植物園や恐竜公園として整備され、隣接地には動物園もあるので訪れたことのある方も多いことと思います。この山稜は南北に伸びる平頂山稜で、元は左上の写真のように北峰と南峰があったのですが、右上の写真のように地すべりにより南峰が失われてしまいました。地すべり規模は、長さ2,000m、幅130~430m、深さ20~40m、土塊量900万立米で、その歴史は古く、地すべりの兆候が発見されたのは明治17年であり、その誘因は弘化4(1847)年の善光寺地震と考えられています。



写真-5 地すべり地最上部。昭和24年5月撮影



写真-6 地すべり発生地帯にあった沼の一つで長沼と呼んだところ、41年以降集中施工した深井戸工やケーソン工の排水によってこれらの沼は次第に姿を消した。昭和39年撮影

対策は明治末期から実施されましたが、昭和初期から40年代にかけて激しく活動し、最大移動量が年間10m以上になったことから対策工事で施工された水路などの施設は、破壊され地塊に埋没してしまいました。その後も多くの対策工事が行われて現在の姿になっています。